

今日のトピック 米国の雇用統計 (2016年4月) 労働市場は改善基調を継続

ポイント1 雇用者数は16.0万人増 天候など一時的要因が下押し

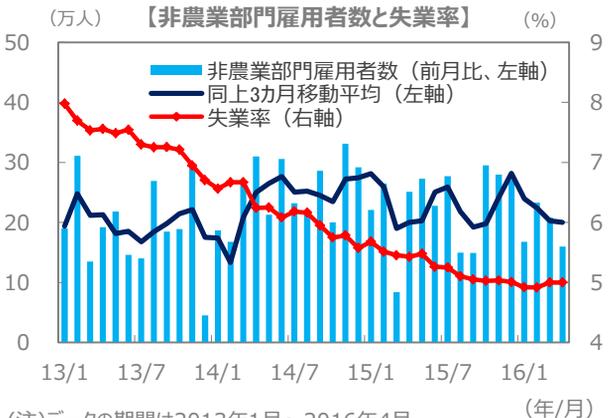
- 2016年4月の非農業部門雇用者数は前月比 + 16.0万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同 + 20.0万人増を下回りました。
- 製造業が3カ月ぶりの増加となったものの、小売業が減少に転じたうえ、建設業の増勢が鈍化したためです。小売業は暦要因（イースター休暇が今年は3月だった）、建設業は天候要因（暖冬の影響で1~3月の雇用が上振れした反動）といった一時的な要因の影響もあったと見られます。
- 雇用の増加ペースは、3カ月移動平均で + 20.0万人と、+ 20万人の水準を維持しています。

ポイント2 失業率は5.0% 賃金上昇率は前年比+2.5%

- 失業率は前月比横這いの5.0%でした。米国の労働市場は、ほぼ完全雇用の状態にあると考えられます。一方、失業者のうち、より条件の良い他の職に就くなど自発的な理由で離職した、いわゆる自発的離職者の割合も、前月の10.5%から10.7%に上昇しました。
- 賃金上昇率は前月比 + 0.3%、前年同月比 + 2.5%となりました。労働需給が改善を続けているため、賃金上昇率は今後、底堅く推移すると考えられます。

今後の展開 景気拡大が続くが、金利の上昇は限られたものとなる見込み

- 4月の堅調なISM景況感指数と合わせると、米国の経済は緩やかな拡大基調を維持していると考えられます。もっとも、物価や賃金上昇率が比較的低い



(注)データの期間は2013年1月～2016年4月。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注)賃金上昇率は2007年3月～2016年4月。
自発的離職者比率は2006年5月～2016年4月。
自発的離職者比率は10カ月先行。網掛けは景気後退期。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

水準にあるため、利上げは続きますが、そのペースは緩慢と予想されます。緩やかな景気拡大と落ち着いた金利は、株価上昇の支援材料になりそうです。

ここもチェック! 2016年5月6日 米国のISM景況感指数 (2016年4月)
2016年5月2日 米国のGDP成長率 (2016年1-3月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。